Mr. Bassman（ベースマン列伝） Vol.19

ジャズにおいてベース弾きとは、縁の下の力持ち、水先案内人といったやや日陰の存在。おまけに、ウッドベースなら持ち運びも大変･･･。だが、黙々とベースをウォーキングさせ、バンドをスイングさせることに魂を注ぐベースマンが、一度化けの皮を剥ぐとの凄い名演･名盤が生まれるのだ。このコーナーでは、そんなジャズ・ベースマンの偉業を称えるとともに、ジャズ・ベースの素晴らしさを伝えていきたい。

Niels-Henning Ørsted Pedersen【ニールス・ヘニング・オルステッド・ペデルセン】

Photo: © Nils Winther, SteepleChase Productions ApS

Profile

1946 年 5 月 27 日、デンマークのオステッドで生まる。教会でオルガンを弾いていた母親の影響で 7 歳からピアノを習い始め、14 歳の時に地元デンマークのグループでベースを弾き始める。若干 16 歳でバド・パウエルと共演を果たし、17 歳の時にカウント・ベイシーよりオーケストラへの参加を要請されるが断り、デンマーク・ラジオ・オーケストラの一員、カフェ・モンマルトルのハウス・ベーシストとして地元に居残った。その後もアメリカからデンマークを訪れたデクスター・ゴードン、ソニー・ロリンズ、ビル・エヴァンス、アルバート・アイラー等名立たるジャズマン達と共演を果たし、10 代にしてそのずば抜けた才能を認められる。70 年代に入ると 50 作以上の作品で共演したケニー・ドリューとのデュオやトリオで話題を呼び、レイ・ブラウンの後任としてのオスカー・ピーターソン・トリオへの参加の要請を断ることもあったが、度肝を抜くような超絶テクニックと共にその名を世界中に轟かせた。デンマークのレーベル SteepleChase より初リーダー作品をはじめ、ソロ作品を発表。その他、ジョー・パスやステファン・グラッペリとの共演作などでも話題を呼んだ。長い名前から“NHØP”という表記名でも親しまれたが、2005 年 4 月 19 日、心不全のためデンマーク、コペンハーゲンの自宅で死去。享年 58 歳。

薬指をも駆使した超絶技巧のジャズ・ベーシスト

≪あの“ジャズ・ベースの巨匠”レイ・ブラウンも認めた天才ベーシスト≫

ウッドベースを弾くジャズ・ベーシストのピチカート（指弾き）奏法は、2 本の指（＝人差し指と中指）を使うのがの一般的だが、ペデルセンにおいては薬指をも人差し指と中指と同様に扱い、その正確無比な音程の良さでも定評があった。

1960 年の JATP (Jazz At The Philharmonic) のツアーでデンマークを訪れたレイ・ブラウンは、小さなクラブでベースを弾いていたまだ 10 代半ばにさしかかったばかりのペデルセンのプレイを目の当たりにして度肝を抜かれたと言われている。レイ・ブラウンが人差し指一本による独特のピチカート奏法でベースを弾いていたからではないだろう（実際には人差し指一本で弾きこなす方が至難の業かもしれない…）が、ペデルセンがどれだけ凄いティーンエイジャーだったか想像できるエピソードだ。そして、その後実際にその驚愕のプレイがデンマークだけでなく世界中に知れ渡った。

また、断らざるを得ない理由があったのかもしれないが、カウント・ベイシー・オーケストラやオスカー・ピーターソン・トリオといった伝説のユニットへの参加要請を断ったという一種のハートの強さのようなものもを感じるが、高度なテクニックを持つ自分への揺るぎない自信からか、他の著名ジャズ･ベーシストを名指しで批判するようなこともあり、ジャズ･ファンの中でも賛否両論あるが、いずれにしてもジャズ史に輝く超絶技巧のジャズ・ベーシストだったことは間違いない。

ペデルセンに師事したベーシストたち

ペデルセンは後進の指導にも熱心だったが、ここで天才 NHØP の魂を受け継ぐベーシストたちを紹介したい。ペデルセンと同じデンマーク出身のイェスパー･ボディルセン。スウェーデン出身のペール･オッラ･ガッド。イタリア出身のフルヴィオ･ブッカフスコ。そして、日本人の中でも松永誠剛というベーシストが 2003 年秋にペデルセンに弟子入りして、デンマークでコントラバスを学んでいる。松永誠剛はニューヨークでジミー・ギャリソンの息子マシューにエレクトリック・ベースを師事したベーシストでもある。こうして NHØP の魂は今も息づいている。

ペデルセンの娘はロッカー？！

英語のサイトでペデルセンの娘はデンマークのロック・シーンで有名…という記事を見かけたためネットなどを通してリサーチしてみたが、未だにその名前が判明していない。唯一それらしき人物として、“Vixen”という女性ハード・ロック・バンドで以前ベーシストとして参加していた Share Pedersen という女性ロッカーが存在するが、彼女は 1963 年生まれなので計算上ペデルセンが 17 歳の頃に生まれたこととなり、おまけに米国ミネソタ州出身のようなので恐らく全くの別人であろう…。もし NHØP の娘の存在が分かる方がいたら知らせて欲しい！

NP's Great Album

ここに挙げたリーダー作品以外にも『Pictures』『Dancing on the Tables 』『Hommage』『The Eternal Traveller』『This Is All I Ask』なども機会があれば聴いてみて欲しい！

ペデルセンの記念すべきファースト リーダー作品！ 正に若き天才！

Jaywalkin'
Niels-Henning Ørsted Pedersen
（SteepleChase：SCCD-31041 [Import]）

Niels-Henning Ørsted Pedersen (b)、Philip Catherine (g)、Ple Kock Hansen (p)、Billy Higgins (ds)

1. Summer Song 2. Sparkling Eyes
3. Felicidade 4. Jaywalkin' 5. My Little Anna
6. Yesterday's Future（他、全 10 曲）

1975 年に吹きこまれたペデルセンのファースト・リーダー作品で、若き天才ペデルセンの度肝を抜くようなベースにオーレ・コック・ハンセンのエレキ・ピアノ、フィリップ・カテリーンのギターが全編に渡りフィーチャーされた傑作！ フュージョン色が濃く、ハンセンのエレピが唸る「Sparkling Eyes」や「Cheryl」。ボサノヴァ・ナンバーの「A Felicidade」や「My Little Anna」も最高で、スピード感とグルーヴ感満点の全 10 曲をぶっ通しで楽しめる！ ウォーキングからソロに至るまで、ペデルセンの凄まじさに改めて脱帽。

ペデルセンがジョニー・グリフィン等を迎え故郷デンマークで録音した名作

ゾーズ・フー・ワー
ニールス・ヘニング・オルステッド・ペデルセン
（ユニバーサル・ミュージック：POCJ-9613）

ニールス・ヘニング・オルステッド・ペデルセン (b)、ジョニー・グリフィン (ts)、ウルフ・ワケーニウス (g)、他

1. わが恋はここに 2. デアフォー・カン・ボーツ・オイエ・グレーゼス 3. ウィズ・リスペクト
4. ゾーズ・フー・ワー（他、全 9 曲）

録音は 1996 年。スウェーデンが生んだ名ギタリスト＝ウルフ・ワケニウスなど、北欧のミュージシャンを中心にペデルセンが故郷デンマークで吹き込んだ作品。ペデルセンのオリジナルを含む全 9 曲収録で、注目はジョニー・グリフィン (ts) をフィーチャーした「ザ・パズル」「あなたと夜と音楽と」。そして、リサ・ニルソンのヴォーカルをフィーチャーしたタイトル・ナンバー「ゾーズ・フー・ワー」。ペデルセンの超絶した技巧は勿論、絶妙なバッキングに美しい旋律も文句の付けようがなく、後期を代表する名作のひとつ。

ペデルセンが1962～92年の間に残した名演をセレクトしたベスト盤！

The Bass in the Background
A Great Selection 1962-1992 / NHØP
（Storyville：1018400 [Import]）

Niels-Henning Ørsted Pedersen (b)、Bud Powell (p)、Ben Webster、Dexter Gordon (ts)、Lee Konitz (as)、他

1. Bouncing with Bud 2. Wee Dot [Live]
3. Wait a Second 4. Parisian Thoroughfare
5. Skip It [Live]（他、全 15 曲）

ペデルセンが故郷デンマークのレーベル「Storyville」で 1962~92 年までに主にサイドマンとして残した音源の中から 15 曲を厳選したベスト盤で、2005 年に亡くなったペデルセンを追悼する形で同年にリリースされたアルバム。1962 年、弱冠 16 歳の時のバド・パウエル (p) との共演ナンバー「Bouncing with Bud」を筆頭に、盟友ケニー・ドリュー (p) との最後の共演となったアルバムのラストを飾る「You Don't Know What Love Is」までペデルセンの魅力が満載！ ジョン・レノンの名曲「Imagine」も必聴です！

NP's Support Album

リーダー作以外ではカルテットやクインテットという編成よりもデュオやトリオのユニットで活躍したペデルセン。ここに紹介した 6 作品以外にも数多くの名盤が残されている。

The Trio
Oscar Peterson/Joe Pass/NHØP
（Pablo/OJC：OJCCD-992-2 [Import]）

オスカー・ピーターソン (p)、ジョー・パス (g) とペデルセンのドラムレス・トリオによる 1973 年のライヴ作品。この作品で 3 人共グラミー賞を受賞！

Duo Live In Concert
Kenny Drew & NHØP
（SteepleChase：SCCD-31031 [Import]）

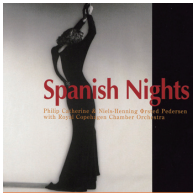
盟友ケニー・ドリュー (p) との人気デュオ・シリーズ『Duo』『Duo2』をライヴで実現させた名盤。録音は 1974 年。オランダのユトレヒトで行われた。

Double Bass
Sam Jones & NHØP
（SteepleChase：SCCD-31055 [Import]）

1976 年録音。いぶし銀のベーシスト、サム・ジョーンズ（当時 51 歳）とペデルセン（当時 29 歳）のデュオをフィーチャーした新旧ベース・デュオ作品。

Chops
Joe Pass & NHØP
（Pablo/OJC：OJCCD-786-2 [Import]）

ジョー・パス (g) とペデルセンの名デュオ作品。全 10 曲収録でオープニングの「Have You Met Miss Jones?」から感極まる。1978 年録音。



スパニッシュ・ナイト
フィリップ・キャサリーン＆ニールス・ペデルセン
（M&I：MYCJ-30304）

欧州ジャズ界の名ギタリスト、P・キャサリーンとペデルセンの共演作で、ロイヤル・コペンハーゲン・チェンバー・オーケストラも参加。1989 年録音。

ALICE
Maria Joao / Aki Takase
（Enja：ENJA-6096 [Import]）

マリア・ジョアン (vo) と日本人ピアニスト高瀬アキとペデルセンのトリオによる「JAZZ OST-WEST Festival Nürnberg 1990」でのライヴ録音！